



THE WORLD BANK

Working for a World
Free of Poverty



FOOD AND AGRICULTURE ORGANIZATION
OF THE UNITED NATIONS

helping to build a world without hunger

NEWS RELEASE

News Release
No. 2008/104/SDN

Contacts

In Washington: Fionna Douglas (202) 473-8913
(240) 505-2520

fdouglas@worldbank.org

Elizabeth Petheo (202) 458-2209
(202) 834-3853

epetheo@worldbank.org

In Rome: George Kourous (+39) 06.570.53168

George.Kourous@fao.org

EMBARGOED UNTIL OCTOBER 8, 2008, 4:00PM EST

US\$50 Billion Lost by Marine Fishing Each Year New World Bank - FAO Report Reveals “The Sunken Billions”

(unofficial translation - Japanese)

プレスリリース草稿

海面漁業で年間500億ドルの経済損失
世界銀行、国連食糧農業機関（FAO）の共同研究で明らかに

漁業管理体制の不備、非効率、水産資源の乱獲などによる漁業の経済損失は、年間500億ドルにもものぼることが、世界銀行と国連食糧農業機関（FAO）の共同研究で明らかになった。過去30年間の累計経済損失は2兆ドル、イタリアの国内総生産（GDP）とほぼ同額という。

世界銀行とFAOがこのほどまとめた報告書、*The Sunken Billions: The Economic Justification for Fisheries Reform*

（沈む大金：漁業改革の経済的正当性）によると、こうした漁業経済損失のほとんどは適切な漁業管理によって、漁業者や漁業地域に還元できるとしている。

世界銀行のキエラン

ケラハー漁業スペシャリストは記者会見で、「持続可能な漁業の推進には、水産資源の乱獲を促す政策から、管理責任を問う政策へと意志の転換が必要。今回の報告書は、漁

業セクターの改革によってどれだけ経済的効果が現れるかを浮き彫りにしており、今後の政策決定に役立ててほしい」と語った。

報告書によると、経済損失の最大の原因は、漁業資源の枯渇によって魚を採るのが難しくなり、コスト高になったこと、および漁船数の過剰だという。英語でよく言われる、“too many fishers chasing too few fish”（たくさんの漁師が少しの魚を追いかけている）という状況だ。報告書の試算である年間500億ドルの損失には、遊漁業やツーリズムへの影響は含まれておらず、これらを含めると損失額はもっと高くなるという。

過剰な漁獲能力

近年の世界的な石油価格の高騰で、漁業者の経営は一層厳しくなっているが、それより以前から、海洋汚染や魚の生息地の減少、漁業技術の発展による漁獲能力の向上などによって、水産資源の枯渇が進んでいる。世界の漁獲量はここ10年以上伸び悩む一方、漁船1隻当たりの漁獲量は漁獲能力の向上にもかかわらず減少をたどっているという。

隠されたコスト

FAOの試算では、世界の海面漁業資源の75%が十分に利用されている（Fully exploited）または過剰に利用されている（Overexploited）と報告されているが、報告書は、資源の状態にばかり焦点を当てていると、経済的な側面を見逃しがちだと指摘。例えば「資源が十分に利用されている」状態とは、経済的な視点から見ると、ほとんどの場合で利益を最大限に引き出せる「経済最適」を超えて漁獲していると、経済的にみた最適漁獲量と生物学的にみた最適漁獲量との違いを強調している。

報告書の著者の一人であるFAOのラルフ

ウィルマン氏は、「今の状況は漁師の収入の低下、漁業企業の利益低下、資源の枯渇と、勝者がいない状態」と語る。

報告書は、経済損失を還元するための方法として、まず漁業努力量の削減によって、漁業者当たりの漁獲量および漁業利益を上げるとともに、枯渇した水産資源の回復を促進することで、より安価に漁業を営むことができると指摘している。

発展途上国への貢献

漁業の経済改革は、漁業資源の回復だけでなく、漁業資源に頼って生活している多くの人々の生活の向上、漁業生産品の輸出の増加、食料の確保などにも大きく影響を与える。海面漁業は、世界の水産業全体から見れば小さいものの、従業者数や雇用機会を与えると、発展途上国では最も重要な産業の一つに位置づけられる。「海で働く漁師が一人いると、陸では3人の働き手が必要。魚は人々の重要な蛋白源であるとともに、世界で20億人もの人々の生活を支えており、このうち9割は発展途上国に集中している」とウィルマン氏は語る。

改革進展を示す兆候

報告書は一方、漁業改革の成功例もあげている。執筆者の一人であるアイスランド大学漁業経済学専門のラグナー

アナソン教授は、アイスランド、ニュージーランド、ナミビアなどの成功例をとり、「漁業セクターが直面している問題を解決するには、漁業権の強化確保システムが欠かせない」と強調する。

漁業権の強化確保については、多くの国際機関がその必要性を強調しており、2001年11月にASEANとSEAFDECがFAOの協力の下に共催した「食料安全保障のための持続可能な漁業に関するASEAN-SEAFDECミレニアム会議」においてもその促進が確認されたほか、2005年8月に開催されたNEPAD（アフリカ開発のための新パートナーシップ）魚会議「Fish for All」においても支持された。世界最大の漁業であるペルーのカタクチイワシ漁業においても、漁業権アプローチの方向で改革が進められている。

漁業政策改革は政治的な問題が絡むため実行が通常とても難しく、漁船や漁業従事者数の縮小を含む場合は一層困難といわれている。このため、「改革の過程で漁業者の権利や生計を確保することが重要」とキエラン氏は強調している。

注： *The Sunken Billions: the Economic Justification for Fisheries Reform*

は世界銀行の持続可能な漁業にむけたドナーパートナーシップであるPROFISHの資金技術支援を受けています。

Ragnar Arnason, Kieran Kelleher, and Rolf Willmann are available for interviews.